

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 23 号	氏名	松永常典
学位審査委員	主査	池田通	
	副査	根本孝幸	
	副査	原宜興	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、生体材料として利用されているキトサンのモノマータイプの、歯の組織実質欠損部位の治癒促進に対する有用性を証明しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 株化骨芽細胞と歯髄細胞を使った <i>in vitro</i> の系で、アルカリホスファターゼの発現上昇および、IL-8 産生の抑制を証明し、<i>in vivo</i> のラット切歯を使った直接覆髄実験では、初期炎症反応の抑制と旺盛な組織再生を証明しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 キトサンモノマーの応用によって、ALP を介した石灰化能が亢進し、IL-8 産生を介した好中球を主体とした初期炎症反応が抑制されることを初めて証明することができたことから、キトサンモノマーを使った組織再生治療法の今後の発展が期待される。</p> <p>以上のように、本論文は歯の組織実質欠損部の再生療法の改善に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			